会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 坂田
日 時	平成26年3月10日(月曜日)	開 議	午後 1 時 0 0 分
		閉 議	午後 4 時 5 5 分
出席委員	立花 眞継 苗村 酒井 井上 藤本 西口 竹田 明田		
理事者出席者	坂井病院事業管理者 野中管理部長 佐々木病院総務課長 赤間経営企画課長 小笹医事課長 西田環境市民部長 中川環境市民部担当部長 吉田保険医療課長 山口保険医療課副課長 野々村高齢者医療係長 正心国保給付係長 小川健康福祉部長 木曾健康福祉部担当部長 玉記高齢福祉課長 大矢健康増進課長		
事務局	坂田		
傍聴者	市民 - 名	報道関係者 - 名	議員 - 名()

会 議 の 概 要

1 開議

2 事務局日程説明

3 議案審査

[理事者入室] 市立病院

< 病院事業管理者 >

あいさつ・概要説明

(1) 第 1 2 号議案 平成 2 6 年度亀岡市病院事業会計予算

< 病院総務課長 >

資料に基づき説明

~ 1 3 : 3 8

[質疑]

< 酒井委員 >

資料 P 3、一般会計繰入金の高度医療分の内訳は。また分析をしているのか。

< 管理部長 >

高度医療機器の減価償却費や保守料、高度医療にかかる医師と看護師の person 費を計上している。国では積算方法をだしていない。

< 酒井委員 >

救急の受入数と、断った数は。

< 管理部長 >

3 6 5 日 2 4 時間救急体制を維持しているが、お断りした件数は把握していない。受け入れた件数を分析している。

< 苗村委員 >

予算書 P 2 8、職員 1 2 1 名分の職員と非常勤の割合は。

多額の繰入金については、市民理解が欠かせない。地域に開かれた市立病院としての方針は。

<病院総務課長>

比率は把握していないが、人数は同程度。職員121名、非常勤100名超である。

<病院事業管理者>

職員一同が地域医療に役立つよう考えている。今年が設立10周年で、7月に集いを開催し、10年のあゆみを市民に知らせていきたい。病院を拠点とした開かれた健康教育等を行っており、市民に還元できる教室の開催を次年度も引き続き行う。また5月に看護の日を定めて市民に開放している。

<苗村委員>

急性期医療としての役割を果たす方針に変わりはないが、求められていることも変化しているなかで今後の検討は。

<病院事業管理者>

南丹エリアと亀岡市内での果たす役割があり、しっかりとやっていかなければならない。繰入金も病院の役割を果たすために考えていただいている。国が求める急性期を行っていかこうとすると、100床では医療法の改正や診療報酬上の問題等で厳しい。公立として他の病院が行わない責任を行っていかなければならず、現実的に厳しいが、今までの取り組みから外れることなくやっていかなければならない。

<井上委員>

医師の業務予定量は前年度と同様であるが、内科医の減少による影響は。

P26、外来収益の単価が7965円から8500円に増加した要因は。

医療ミスに対する保険制度がないと聞くが、そのような事象が発生した場合の予算的な対応は。

<病院事業管理者>

大学の異動により内科医が異動し、その後は非常勤で対応している。色々な関係機関や、大学当局と話をしている。4月から減少するのは確実であり、職員一同が一丸となって取り組んでいく。

<医事課長>

外科のガン治療薬剤が非常に高額で、その影響である。

<管理部長>

金額が多額の場合は単独で損害賠償の議案と補正予算を提案することになる。少額の場合は既決予算の中で予備費を含めて対応する。また医師損害賠償保険に入っており、医療事故の場合は2億円まで補填される。

<眞継委員>

会計基準が変わり、退職給付金を5年間で分散し、毎年約5000万円を引当金として計上することにより決算額が下がるが、5年間はこの状態が続くのか。

特別処理後も退職金を計上していくのか。5年後の計上額は。

入院患者数を2万9200人と見込んでいるが、医師減もあり見込みは過大ではないか。

<管理部長>

現在の職員が年度末に退職した場合の積算が、約2億5000万円で、5年分割として約5000万円を計上している。26年度は当初予算ベースで1億2400万円の赤字が生じ、特別損失額と同額となる。特別損失の計上は制度改正により、赤字を最小限に止めようとする目的で、経過措置として認められている。

5年間で積みきったことになる。職員の異動に伴い再計算し、増えれば金額が積み増しになるが、約2億5000万円を積み、その後大きく積むことはない。

<病院事業管理者>

病院の収益は入院と外来しかない。診療報酬は国が決めた額であり、技術が高くても同じ額しかいただけない。電子カルテを導入してから、現在の入院患者数や医師1人の患者数を医局だけでなく色々なところに貼り出し、医療スタッフ全員がモチベーションを高めながら入院患者増加に努めている。10年経過した中で見直しをしながら安定した運営をしていく。入院患者数も色々な方向から検討した結果であり、目標に向かって頑張っていくのが現実のところである。

<眞継委員>

自分に何かあったときに市立病院に行こうという潜在的な患者を獲得するためには、日々の積み上げが必要で口コミだと考える。救急医療で断った人数は把握していないとあったが、利用していただくヒントが隠されていることもあり、検証していく必要があるのではないか。

26年度の最終純損失と特別損失が同額との説明であったが、特別損失のなかの賞与引当金は5年後以降も計上されるのか。

<管理部長>

賞与引当金は給与費に計上しており、今後は給与費のみで計上する。制度改正に伴い25年度4ヶ月分の6500万円が特別損失に入っているが、26年度のみであり、次年度以降は退職給付引当金だけとなる。

<病院事業管理者>

救急は脳外科関係の受け入れができない。また1人で当直をしているので救急車を1台受け入れていれば、次の患者が受け入れられない。南丹病院、亀岡シミズ病院と当直医師情報を共有する中で、うまく救急体制がとれるようにしている。データはとっていないが、今後はそういったところも強化していかなければならない。

[理事者退室]

~ 14 : 09

[理事者入室] 環境市民部

<環境市民部長>

あいさつ・概要説明

(2) 第2号議案 平成26年度亀岡市国民健康保険特別会計予算

<保険医療課長>

資料に基づき説明

~ 14 : 45

[質疑]

<苗村委員>

滞納繰越分の累積滞納額は。

被保険者に届かない留め置き数と、短期保険証発行数は。

条例改正の関係もあるが、上限額に達した世帯に賦課できない保険料が、上限額に達していない世帯に再分配されるのはどの程度か。

<保険医療課長>

累積滞納額はあとで資料提出する。

短期被保険者証は、25年度12月末時点で6ヶ月証215世帯、3ヶ月証412世帯、2ヶ月証が78世帯、1ヶ月証が270世帯、合計交付世帯数が975世

帯。国保世帯数は1万3779世帯なので交付率は7.1%。留め置き数は、あとで資料提出をする。

限度額引き上げ時の試算では、限度額に達した超過額が6700万円で、それが中間所得者層の保険料率に入っている。

<井上委員>

26年度に国保調整基金をほぼ全て取り崩してしまうが、27年度も同様の状況が続けば、受益者負担という形で値上げになるのか。

平均所得割を他市と比較するとどの程度か。

<環境市民部担当部長>

療養給付費と歳出の伸びを鑑みて、現在の保険料率で算定すると1億7000万円が不足する。26年度は基金で賄うが、27年度以降は極力引き上げなくてもよい方向で推移すればいいが、高齢化に伴う一人当たりの医療費増加と所得水準の低減により、同じ保険料率で計算すると、収支不足から大きな転換はなく、引き上げが必要な状況と考えられる。現時点で明確なことは言えない。

<保険医療課長>

所得割の保険料率は、京都府内7、8番目。保険料は均等割、平等割もあるが、総合的にも真ん中である。

<井上委員>

27年度の収支不足見込み額は。

<環境市民部担当部長>

27年度は現在算出不能。

<井上委員>

26年度の収支不足見込み額は。

<環境市民部担当部長>

当初予算段階で約1億7000万円。

<藤本委員>

基金が無くなれば、保険料の値上げが心配であるが、前回の値上げはいつだったのか。27年度以降の方向性は。

<環境市民部担当部長>

前回引き上げは23年度で、一般会計から特別に5000万円を繰入れて保険料率を抑制した。前回の考え方を参考にすべきと考えるが、現時点で27年度をどうするかは言えない。

<苗村委員>

説明書P249、250の収納率向上特別対策事業費は、前年度より約500万円増えている。収納対策の新たな検討は。

<保険医療課長>

未納専門嘱託職員と非常勤嘱託職員を任用する予定で、1名は内部で収納対策事務の非常勤嘱託職員。業務委託料の大きな部分は、滞納管理システムのシステム改修である。

<眞継副委員長>

被保険者の平均年齢は。

医療費通知を4回から1回に減らした減額補正があったが、26年度の通知も同様か。なぜ回数を減らしたのか。

<保険医療課長>

平均年齢は分からない。年齢構成から前期高齢者の割合が増加している。

25年度と同様に26年度も医療費通知を1回で計上している。郵送料や出力を国保連合会に委託し、補助対象で通知をしていた。今回補助対象が改正され年1回とした。通知は医療機関への牽制効果と被保険者が医療費をどれくらい使用しているのか認識していただく意図があり、無くすことは出来ない。

< 藤本委員 >

施策の概要P8、特定健康診査業務委託料の対象受診率は。

< 保険医療課長 >

24年度の確定実施数で色々な数値がある。被保険者を対象として受診は28.2%。国が示す基準の法定報告では34.5%。25年度の1月末では25.6%であるが、法定報告になると少し受診率は上がる。

< 立花委員長 >

P253、保険給付費が上がることにより、1億7000万円が不足すると理解したが、補正での増額はなかった。3年平均で積算しているが、なぜ昨年度より1億5300万円も増額するのか。増額補正がなかったのであれば、保険給付費が上がらないのではないか。

滞納世帯数の滞納一覧表を資料提出願う。また資格証の発行数と滞納については地方税機構送りなのか。

< 保険医療課長 >

3月補正で保険給付費を増減していない。医療機関から毎月現物給付で動く医療費が4億円程度あるが、インフルエンザが流行している状況なので、保険給付費の減少が見込めなく減額しなかった。25年度決算見込みと24年度決算を比べると4.6%伸びると見込んでおり、23年度決算と24年度決算の比較を見ると26年度は最終3.1%伸びると見込んでいる。決して見込み過ぎではなく、かなり絞った見込額である。当初からどんどん伸びると、途中で保険給付費の歳出額が無くなる可能性もあり、途中で増額補正をしないといけない。

滞納一覧表については、決算資料としており、25年度決算時に資料として提出する。資格証明書の交付は25年度12月末で3件。24年度も3件なので変化はない。地方税機構については、亀岡市国保は移管せずに市独自で処理をしている。

< 環境市民部長 >

提出資料の確認だが、留め置き件数、過去の滞納の累計額の2点で良いか。

< 立花委員長 >

2点の資料を求める。

~ 15 : 12

(3) 第7号議案 平成26年度亀岡市後期高齢者医療事業特別会計予算

< 保険医療課長 >

資料に基づき説明

~ 15 : 23

[質疑]

< 苗村委員 >

軽減後の7万3822円というのは全体の平均か。

< 保険医療課長 >

京都府の広域連合が示している一人当たりの平均保険料である。

< 苗村委員 >

平均保険料の値上げ金額は。

< 保険医療課長 >

一人当たり平均保険料が前回7万4286円に対し、今回7万3822円で464円減少になる。

< 苗村委員 >

短期証の発行数と普通徴収の収納率は。

< 保険医療課長 >

26年2月1日現在で6ヶ月証を9名に発行している。現時点で収納率は分からないので、25年度決算時に報告させていただく。

[理事者退室]

~ 15 : 26

< 休憩 15 : 26 ~ 15 : 35 >

[理事者入室] 健康福祉部

< 健康福祉部長 >

あいさつ・概要説明

(4) 第4号議案 平成26年度亀岡市休日診療事業特別会計予算

< 健康増進課長 >

資料に基づき説明

~ 15 : 43

[質疑]

< 眞継副委員長 >

医薬品購入の業者と基準は。

< 健康増進課長 >

株式会社メディセオ。3社見積合わせにより、安価の業者を選定している。

< 西口委員 >

今年のインフルエンザの傾向は。

< 健康増進課長 >

患者数は12月1日から増加しており昨年と同程度数。今年度最多の患者数は1日70人。

< 眞継副委員長 >

医薬品の購入業者は市立病院と無関係か。

< 健康増進課長 >

市立病院の購入業者は聞いていない。

< 眞継副委員長 >

市立病院も休日急病診療所も亀岡市であり、同じ業者から購入すれば少しでも安くなるのではないか。

< 健康増進課長 >

今後検討する。

~ 15 : 46

(5) 第 6 号議案 平成 2 6 年度亀岡市介護保険事業特別会計予算
< 高齢福祉課長 >
資料に基づき説明

~ 1 6 : 0 9

[質疑]

< 井上委員 >

P 8、マッサージサービス事業の詳細は。

< 高齢福祉課長 >

視覚障害者協会亀岡支部に委託し、総合福祉センターで月 1、2 回程度実施しており、昨年度の実施回数が 1 6 回で、延べ利用者が 2 7 7 名である。

< 井上委員 >

P 8、市長申立成年後見人報酬助成の事業内容は。

< 高齢福祉課長 >

認知症や障害者の方で、金銭管理ができない場合、本来は親族等が後見をするが、身寄りのない方は市長に申し立てを行い、行政書士等が後見人となり金銭管理を行う。本人が一定の資産を持っていれば、そこから支払うが資産がない場合は後見人が裁判所に申し立てを行い、決定した額を助成する。現在の対象者は 2 0 人。

< 苗村委員 >

予算説明書 P 3 5 7、減年度分普通徴収保険料の収納率は。

滞納者に対する給付制限対象者数は。

< 高齢福祉課長 >

2 4 年度実績の徴収率が、普通徴収 8 7 . 8 6 %、滞納繰越分 1 7 . 3 % である。

現在 2 名。介護度も軽度で給付サービスは受けておられない。自己負担が発生することを十分に説明した上で手続きを行っている。

< 苗村委員 >

地域包括支援センター運営委託料について、どの包括支援センターも人件費がほとんどで、持ち出しがあるが、今後の考え方は。

< 高齢福祉課長 >

高齢者数を基本に委託料を決定している。2 7 年度以降は包括支援センター運営委員会で、活動評価や費用面を協議の上で検討する。

[理事者退室]

~ 1 6 : 1 6

4 討論 ~ 採決

[自由討議]

なし

[討論]

< 苗村委員 >

第 7 号議案について、5 割 2 割の軽減で平均保険料が下がったと説明されたが、軽減がかからない方は、所得割均等割の引上げにより保険料が値上がる。2 年ごとに値上げがされており反対する。

[採決]

第 2号議案	挙手	全員	可決
第 4号議案	挙手	全員	可決
第 7号議案	挙手	多数	可決
第12号議案	挙手	全員	可決

~ 16 : 22

5 請願審査

受理番号2番 京都府中部地域（児童養護施設青葉学園）に「児童家庭支援センター」を設置することに関する請願

[紹介議員説明][質疑]

なし

[自由討議][討論]

なし

[採決]

受理番号2番 京都府中部地域（児童養護施設青葉学園）に「児童家庭支援センター」を設置することに関する請願

挙手 全員 採択

<立花委員長>

京都府へ設置要望を行う意見書を提出する。

<全員了>

<立花委員長>

意見書案を配付する。内容確認を願う。発議者についてどうするか。

<苗村委員>

全会派の幹事長が紹介議員になっている。常任委員会で発議をすればどうか。

<竹田委員>

常任委員会発議で良いと考える。

<立花委員長>

環境厚生常任委員会の発議とする。

<全員了>

~ 16 : 25

6 陳情・要望について

老人医療費助成制度の原則1割負担存続に関する陳情

<立花委員長>

取り扱いについて意見はあるか。

<苗村委員>

京都府の制度として継続されてきたが、今回70歳からの1割負担が2割負担になる。1割負担を継続させていくため、委員会発議で京都府に対し意見書を提出してはどうか。

<立花委員長>

京都府に対する意見書について意見はあるか。

<藤本委員>

老人医療助成が1割から2割になるのは、結局は予算がなく存続できないためであり、聞き置く程度でよいのではないか。

<立花委員長>

意見が分かれているため、意見書を提出するか聞き置く程度にするか採決を行う。

挙手 少数 (賛成: 苗村)

<立花委員長>

聞き置く程度とする。

~ 16 : 33

7 その他

議会報告会での意見・要望等と回答について

<立花委員長>

古世3について、参考とする。

<全員了>

<立花委員長>

古世10について、参考とする。

<全員了>

<立花委員長>

古世12について、参考とする。

<全員了>

<立花委員長>

東本梅4について、どう取り扱うか。

<西口委員>

報告にはどうか。

<立花委員長>

東本梅4について、報告とする。

<全員了>

<立花委員長>

東本梅5について、どう取り扱うか。

<苗村委員>

「御理解をいただく必要があると考える」ではなく、「まだ決まっていないので、地元と十分協議をしていくことになる」と説明した。

<眞継副委員長>

東本梅4と併せて報告にはどうか

<立花委員長>

東本梅4について、報告とする。

<全員了>

<立花委員長>

曾我部6について、参考とする。

<全員了>

<立花委員長>

旭8について、どう取り扱うか。

<井上委員>

要望として言われており、議員は答えていない。参考にしてはどうか。

<立花委員長>

旭8について、参考とする。

<全員了>

議会だよりでの委員会報告内容について

<立花委員長>

意見はあるか。

<眞継副委員長>

請願を掲載すればどうか。

<竹田委員>

第58号議案の一般会計補正予算について、浄化槽設置整備事業経費の目標と実績の乖離を掲載すればどうか。

<苗村委員>

病院事業会計補正予算で太陽光パネル設置について掲載すればどうか。

<藤本委員>

浄化槽設置整備事業経費よりも、太陽光パネル設置の方が良いのではないか。

<井上委員>

明るい話題を掲載する方が良い。

<立花委員長>

請願と太陽光パネル設置を掲載する。

<全員了>

月例開催について

<立花委員長>

委員会として年間テーマを持って月例会を開催し、最終的に政策提言等が出来るようにしていきたい。次回開催時に委員会のテーマを決定することにして、開催の日程を確認する。

<西口委員>

4月20日以降で開催願う。

<立花委員長>

4月21日(月)午前10時の開催で良いか。

<全員了>

常任委員会行政視察について

<立花委員長>

5月中旬に視察を行うこととして、視察目的・視察先などの意見を確認する。相手先の受け入れもあるため、意見を参考に正副委員長に一任を願う。

<酒井委員>

これから委員会として提言をまとめることもあり、テーマに沿った視察にしてはどうか。

<竹田委員>

提言については今後のことであり、2泊3日ではなく分けて視察を行うことも考え

てはどうか。正副委員長に一任するが、要望があれば事務局に連絡すればよい。

<井上委員>

正副委員長に一任する。

<西口委員>

同意見である。時期は5月の3週目あたりを希望する。

<藤本委員>

高齢化が進むなかで、地域包括ケアシステムの先進事例等を視察してはどうか。先進地として群馬県前橋市や高崎市を提案する。

<立花委員長>

他にあれば20日までに事務局に連絡願う。次回に方向性を決定し、視察先は正副委員長に一任願う、相手先を調整のうえ各委員に報告する。

<全員了>

<眞継副委員長>

5月12日から23日までの間で、都合の悪い日を確認する。

<井上委員>

5月17日。

<立花委員長>

他にあるか。なければ先程の日程で検討する。

<全員了>

散会 ~ 16:55